

JASR2024 日本社会関係学会第4回研究大会プログラム

主催：日本社会関係学会

2024/02/09 現在

*最新版は随時学会HPに掲載されます
日本社会関係学会公式サイト：<https://jipps.org/jasr/>
学会事務局：jasrsec@gmail.com

会場 (3/20~21)：日本大学経済学部7号館

東京都千代田区神田三崎町1-3-2

最寄り駅：JR水道橋駅から徒歩5分程度または地下鉄神保町駅から徒歩10分程度

<https://maps.app.goo.gl/xw84TBCFhH9bgksY8>

◆ 3月19日 (火)

19:00-20:00 理事会 (オンライン) (関係者限り)

20:30-21:30 オンライン・ワークショップ：「社会関係事典」プロジェクト

本学会の会員が編集や執筆に参加する社会関係事典やポータルサイトを作成する会員参加型「社会関係事典プロジェクト」のワークショップで、編集方針や構成について、ワークショップ形式で議論し、参加者からフィードバックを得る。

山内直人 (日本公共政策研究機構) =モデレータ

立福家徳 (日本大学)・戸川和成 (千葉商科大学)・小川顕正 (新潟大学)

◆ 3月20日 (水・祝) 09:00 受付開始

09:30~11:00 分科会 A

A1 企画パネル1：ソーシャル・ファイナンスと休眠預金活用制度の役割

休眠預金活用制度ができて4年が経過し、民間公益セクターへの重要な資金ソースになっているが、資金配分や成果の評価については課題が残っており、このパネルにおいては、国際比較も含めてこの制度の将来を展望する。

立福家徳 (日本大学) =モデレータ・小関隆志 (明治大学)・芥田 真理子 (日本民間公益活動連携機構・JANPIA)・梅原あすな (日本公共政策研究機構)・馬場英朗 (関西大学)

A2 企画パネル2：ソーシャル・キャピタルと教育に関する研究の新展開：子どもの学びに寄与する地域社会の成果と課題

次世代を担う子どもの学びに寄与する地域社会の成果と課題について、コミュニティハウス事業や地域子育て支援拠点事業、エリアマネジメント事業を社会関係資本論の観点から検証したエビデンスを基に議論を行う。

芳賀道匡 (静岡福祉大学) =モデレータ・堀川佑惟 (日本大学)・福島勉 (東京学芸大学/アットソリューションズ)・要藤正任 (京都大学)・露口健司 (愛媛大学)・杉森伸吉 (東京学芸大学)

A3 公募パネル1：スポーツ参加の促進要因の探索と支援政策の評価研究—国・自治体・個人レベルの重層的アプローチ

スポーツ施設整備推進政策の妥当性、スポーツ参加促進要因の探索、デジタル技術を活用した身体活動の促進といった課題に関わるエビデンスに基づく検証を行う。

近藤克則 (千葉大学/国立長寿医療研究センター研究所) =モデレータ

金森悟 (帝京大学)・辻大士 (筑波大学)・中込敦士 (千葉大学)・河口謙二郎 (千葉大学)

A4 公募報告1：公共政策と実証分析

モデレータ：川脇康生 (関西国際大学) 討論者：坪内浩 (日本大学)

尾形紗希 (関西学院大学)：企業による従業員ボランティアの推進とマッチング課題

長島弥史郎 (日本開発構想研究所)：大学歯学部における教育・研究活動の効率性分析

松下美帆 (内閣府)：共助・助け合い参加を促す要素について

11:15~12:45 分科会 B

B1 公募報告 2: ウェルビーイングと実証分析

モデレータ: 井手一茂 (千葉大学) 討論者: 芦田登代 (慶応義塾大学)

【優秀研究報告賞】松村貴与美 (千葉大学)・井手一茂 (千葉大学)・辻大士 (筑波大学/千葉大学)・渡邊良太 (日本福祉大学/国立長寿医療研究センター/千葉大学)・中村廣隆 (朝日大学)・田中琴音 (神奈川県立保健福祉大学)・近藤克則 (千葉大学/国立長寿医療研究センター): 高齢者の通いの場参加における社会経済格差と新型コロナ流行前後の変化: JAGES2019・2022 地域相関連続横断研究

【最優秀研究報告賞】王鶴群 (千葉大学)・河口謙二郎 (千葉大学)・LINGLING (千葉大学)・井手一茂 (千葉大学)・近藤克則 (千葉大学/国立長寿医療研究センター): サービス付き高齢者向け住宅入居者の well-being: 傾向スコアマッチング法での JAGES データとの比較

木村浩巳 (サーベイリサーチセンター/法政大学/武蔵野大学)・高野一輝 (サーベイリサーチセンター)・高橋勇輝 (サーベイリサーチセンター): 量的調査における孤独感尺度の機能的特性の評価に向けた比較分析

B2 企画パネル 3: Global Trend of Research on Civil Society (市民社会をめぐる研究のグローバルな動向)【国際連携委員会企画】

NPO、社会的企業、ボランティアなど市民社会をめぐる研究の最新動向について、国際学会 ISTR の第一線で活躍する Carolyn Cordery 次期会長と KC Dipendra 理事が講義する。日本の研究者をグローバルな研究の舞台に誘うことを目的としたセッションである。

岡田彩 (東北大学・ISTR 理事) =モデレータ *企画協力: 立命館大学経営学部・小島愛研究室

Carolyn Cordery (Victoria University of Wellington)・KC Dipendra (Ritsumeikan Asia-Pacific University, APU)

B3 企画パネル 4: 研究者への道: 社会人と大学院進学・社会でどう活かすか?

大学院を出て研究者として独り立ちするまでにどのようなキャリアパスが考えられるか、若手研究者がそれぞれの就職活動やその後の研究活動を振り返り、厳しい環境の中でどのようにアカデミックキャリアを積んでいくか議論する。

小川顕正 (新潟大学) =モデレータ

土屋貴裕 (京都先端科学大学経済経営学部)・玉井のり (古河電気工業人事部)

B4 公募報告 3: ウェルビーイングとソーシャル・キャピタル

モデレータ: 藤原佳典 (東京都健康長寿医療センター研究所) 討論者: 佐藤嘉倫 (京都先端科学大学)

打田篤彦 (神戸大学)・要藤正任 (京都大学): ウェルビーイングの変動に対するソーシャル・サポートの寄与について

【優秀研究報告賞】芳賀道匡 (静岡福祉大学)・要藤正任 (京都大学): エリアマネジメントと地域住民の生活満足度、地域への愛着、定住意向の関連の検討: 社会関係資本の媒介モデルに着目して

稲葉陽二 (日本大学): 外部性からみた社会関係資本の再評価: 凸性/非凸性の概念の導入

12:45~13:45 昼食休憩

***** この部分は無料一般公開されます *****

13:45 開場 14:00 開演~16:30 終了予定

公開シンポジウム: ウェルビーイングとこれからの経済社会

一人ひとりのウェルビーイング (well-being) を増進する経済社会の仕組みとはどのようなものであろうか。市場は失敗するし、政府は融通が利かないし、家族は弱体化している。進行する少子高齢化と技術革新の中で、われわれが目指すべき経済社会の姿とは何だろうか。この点について、様々な分野の専門家と実務家が意見を交わして知見の共有を図りたいと思います。

基調講演「ウェルビーイング資本主義」

岩田一政・日本経済研究センター理事長

パネルディスカッション

石原 久穂・ヘルスケアアセットマネジメント株式会社取締役

永瀬 伸子・お茶の水女子大学基幹研究院教授

宮本 太郎・中央大学法学部教授

岩田 一政・日本経済研究センター理事長

河越 正明・日本大学経済学部教授=モデレータ

17:00~19:00 懇親会および表彰式 (会場: 日本大学経済学部 7 号館 14 階レセプション・ホール)

表彰式: 第 3 回研究大会研究報告賞・第 2 回日本社会関係学会賞

◆ 3月21日(木) 09:00 受付開始

09:30~11:00 分科会 C

C1 企画パネル5: 社会課題に臨む企業・行政・NPO/CSOの連携に向けて~NPO/CSOのSDGs取組み全国調査から考える~

持続可能な社会の実現に向けたNPOのネットワーク「SDGs市民社会ネットワーク」が実施した、全国のNPOによるSDGsへの取組み調査の結果報告を踏まえ、企業や行政の特徴や役割を比較する中で、マルチステークホルダー連携のあり方について議論する。
長谷川雅子 (CSOネットワーク) =モデレーター・金田晃一 (NTTデータグループサステナビリティ経営推進部)・新田英理子 (SDGs市民社会ネットワーク)・楯晃次 (EMA 代表取締役)

C2 チュートリアル1: 実証研究における位置情報の活用

近年活用が進む位置情報による行動推定を概観し、推定される生活・行動情報を実証分析にどのように活用できるか、医療・介護、街づくり、経済活動の3つの分野の分析例をもとに紹介を行う。

河越正明 (日本大学経済学部) =モデレーター

講師: 高良真人 (TRAILBLAZER データコンサルティング)

C3 公募パネル2: 現代的労働者協同組合の萌芽—協同労働の可能性を考える【労働政策研究・研修機構】

萌芽的な活動を行っている労働者協同組合に注目して事業内容や働き方等を分析し、新しい労働者協同組合が今後どのように展開していくのかその可能性と課題を考える。

小野晶子 (労働政策研究・研修機構) =モデレーター・小島明子 (日本総合研究所)・古俣誠司 (高齢・障害・求職者雇用支援機構)・福田隆行 (弁護士/堀法律事務所)・水野嘉郎 (厚生労働省)

C4 公募報告4: 社会統合と家族・労働

モデレーター: 高橋勇介 (愛媛大学) 討論者: 芦田登代 (慶応義塾大学)・山内直人 (日本公共政策研究機構)

高橋勇介 (愛媛大学): 労働条件や働き方と労働者の心身の健康問題について

藤原聡子 (東京都健康長寿医療センター研究所/千葉大学)・涌井智子 (東京都健康長寿医療センター研究所/筑波大学)・甲斐一郎 (東京大学): 経済的状況が家族介護者の負担感と抑うつに及ぼす影響—婚姻別による検討

大橋ふみな (大阪大学): ドイツの移民・難民統合における障壁と解決への道筋—適正就労の観点から

11:15~12:45 分科会 D

D1 チュートリアル2: 投稿論文の書き方と査読対応

投稿論文の準備の仕方、査読コメントへの上手な対処法から、学術誌をめぐる最近の話題や裏話まで、本学会機関誌『社会関係研究』(JSR)の編集陣が丁寧に解説し、疑問に答える。

山内直人 (社会関係研究編集委員) =モデレーター

石田祐 (社会関係研究編集委員長・関西学院大学)、木谷耕平 (社会関係研究副編集委員長・会津大学短期大学部)

D2 企画パネル6: フリーランス支援と労働組合【共催: 連合総合生活開発研究所】

契約や就業環境などの深刻な問題を抱えるフリーランスに対して、労働組合はどのような支援ができるのか。労働組合とフリーランスの連帯の可能性について、国内外の事例をまじえながら検討する。

麻生裕子 (連合総合生活開発研究所) =モデレーター

呉学殊 (労働政策研究・研修機構)、関口達矢 (全国ユニオン)、若月利之 (連合フェアワーク推進局)

D3 公募報告5: 非営利組織のマネジメントと持続可能性

モデレーター: 佐藤勝典 (香川大学) 討論者: 中嶋貴子 (大阪商業大学)

大久保朝江 (日本公共政策研究機構): 大震災後の被災地支援活動に係るNPO法人の持続可能性—宮城県の事例から実証分析

山本圭三 (摂南大学)・宮垣元 (慶応大学)・鈴木純 (神戸大学): 何がNPOを解散に向かわせるのか—山陰NPO法人調査より

羅歌 (宮城大学)・石田祐 (関西学院大学): NPO法人の解散及び持続を規定する要因に関する実証研究

D4 公募パネル3: ウェルビーイング概念の拡大—人・社会・自然のウェルビーイング

個人だけでなく社会や自然まで含めてウェルビーイング概念の拡大を図り、ウェルビーイング実現に向けた新たな方向性を探る。

齊藤紀子 (千葉商科大学) =モデレーター

荒川敏彦 (千葉商科大学)・小口広太 (千葉商科大学) 権永詞 (千葉商科大学) 田中信一郎 (千葉商科大学)

12:45～13:45 昼食休憩・ポスター発表

13:45～15:15 分科会 E

E1 企画パネル7 伝統的祭礼と社会関係資本

徳島市民と徳島阿波おどりの連員を対象に実施した調査から、阿波おどりへの市民の関わり、人びとのつながり、社会関係資本との関係を明らかにし、ポスト・コロナ時代の伝統的祭礼のありかたと持続可能性を議論する。

渡邊隼（日本大学）＝モデレーター・鷲見英司（日本大学）・川瀬晃弘（東洋大学）・小山弘美（関東学院大学）

E2 チュートリアル3：調査会社モニターを使ったサーベイ

調査会社の保有するモニターを使ったオンラインサーベイに関する入門的講義で、対象となりうるテーマ、調査票設計のコツ、費用、期間などについて解説するとともに、参加者の質問に答える。

モデレーター：TBA 講師：大坂紫（インテージリサーチ）

E3 公募報告6：市民社会と制度・民主主義

モデレーター：長島弥史郎（日本開発構想研究所） 討論者：鈴木隆志（日本大学）

河越正明（日本大学）：有権者の声は割れているか？ 政策選択肢の支払意思額の検討

梅原あすな（日本公共政策研究機構）：休眠預金等活用制度の国際比較：アイルランド、英国、韓国、日本の比較から

小川顕正（新潟大学）：「政府の失敗」は非営利セクターの規模の大きさを説明できるか？ V-Dem を用いた実証分析

E4 TBA

15:30～16:00 会員総会

【ポスター発表一覧】（3月20日および21日の両日展示を行うとともに、21日12:45～13:45に発表タイムを設けます）

1. 浦崎真一（大阪芸術大学）・小野隆（公園からの健康づくりネット）：リンクワーカーを都市公園に配置することによるウェルビーイング向上の取り組み

2. Yu-Ru Chen（千葉大学）・小林周平（千葉大学）・中込敦士（千葉大学）・井手一茂（千葉大学）・阿部紀之（千葉大学）・花里真道（千葉大学）・近藤克則（千葉大学）：社会関係が豊かなまちづくり：柏の葉プロジェクト

3. 苗詩媛（筑波大学）：日本の市民団体メンバーの政治参加におけるジェンダーギャップ：資源、政治的態度、ジェンダーの相互作用

4. 西出優子（東北大学）：プロジェクト型学習（PBL）を通じた学生の学びとNPOとの連携

5. 中込敦士（千葉大学）・井手一茂（千葉大学）・近藤克則（千葉大学）：新型コロナウイルス感染症流行により高齢者のデジタルデバイス利用は縮小したのか

6. 秋吉恵（立命館大学）・櫻井典子（新潟大学）・森田恵（湘南工科大学）・奥貫麻紀（元関西学院大学）・秦憲（志賀県立大学）：「地域を基盤とした学習」による社会関係資本の醸成過程に関する考察

7. 高木悠希（千葉大学）：「総合知」と学際性の現在

日本社会関係学会第4回研究大会運営委員会

委員長：河越正明（日本大学）

委員：芦田登代（慶応義塾大学）・麻生裕子（連合総合生活開発研究所）・井手一茂（千葉大学）・大坂紫（インテージリサーチ）

川脇康生（関西国際大学）・北見幸一（東京都市大学）・鈴木隆志（日本大学）・坪内浩（日本大学）・中川雅之（日本大学）

中嶋貴子（大阪商業大学）・長島弥史郎（日本開発構想研究所）・芳賀道匡（静岡福祉大学）・長谷川雅子（CSOネットワーク）

渡邊隼（日本大学）・山内直人（日本公共政策研究機構）・立福家徳（日本大学）・戸川和成（千葉商科大学）・小川顕正（新潟大学）

大会スタッフ：尾形紗希（関西学院大学）・森野純夏（慶応義塾大学）・峯村遥香・Mao Wenye・Chen Qiuyi・Feng Youxin（以上東北大学）

清水天翔・太田温人・青木琴乃・岡田琴音・石丸凜乃・太田朱寿子・斎藤美南（以上日本大学）

日本社会関係学会理事会・事務局

会長：山内直人 副会長：岡田彩・近藤克則 総務理事：河越正明 監事：大久保朝江・各務克郎

理事：立福家徳・戸川和成・石田祐・小野晶子・金谷信子・佐藤嘉倫・辻中豊・露口健司・藤原佳典・松永佳甫・要藤正任

学会事務局：立福家徳（事務局長）・小川顕正（局次長）・戸川和成（局次長）・梅原あすな（会員担当）・藤澤顕子（WEB担当）